

令和5年度第2回
松戸市総合教育会議 会議録

令和5年10月30日

松戸市総合政策部政策推進課

令和5年度第2回松戸市総合教育会議
次第

日時：令和5年10月30日（月）
午後1時00分から
場所：教育委員会5階会議室

1 開会

2 議事

議題 文化・スポーツ行政に関する在り方の検討について

3 その他

4 閉会

◎開会

○谷口総合政策部参事

それでは、会議を始めさせていただきたいと思います。

本日はご多忙の中、令和5年度第2回松戸市総合教育会議にご参集いただき、誠にありがとうございます。

本日司会をさせていただきます総合政策部参事の谷口と申します。よろしくお願いいたします。

それではまずお手元の資料の確認をさせていただきます。まず、A4版の次第です。次に出席者一覧A4版1枚。次に席次A4版1枚。資料1文化スポーツ行政の在り方における検討経過についてA4版1枚。そして、資料2としまして（仮称）文化スポーツ部の新設について（案）A3版1枚となっております。

不足等ございませんでしょうか。

これより、本郷谷市長に議事の進行をお願いします。本郷谷市長よろしくお願いいたします。

○本郷谷市長

まず傍聴についてご報告いたします。

本日の会議では2名の方から傍聴したい旨の申し出があります。

本会議につきましては、本日、非公開にすべき事項がないことが見込まれるため、松戸市総合教育会議規程第7条に基づき公開とし、松戸市総合教育会議傍聴要領に基づき、傍聴人の受け入れについて許可いたします。また、会議の開会以降、傍聴希望者があれば、随時入室を許可いたします。

では傍聴人を入場させてください。

次に本会議では議事録を公開したいと考えております。また正確を期するため録音につきましてもご了承願います。今回の会議の議事録署名につきましては、伊藤教育長、中西委員の2名にお願いいたします。

◎議題文化・スポーツ行政に関する在り方の検討について

○本郷谷市長

それではこれより、令和5年度第2回松戸市総合教育会議を開会いたします。お手元にお配りしております次第に沿って議事を進めます。本日の議題は、文化・スポーツ行政に関する在り方の検討についてです。文化・スポーツ政策につきましては、市を挙げて積極的に総合的に展開していくため、今年度第1回目の総合教育会議において、市長部局における新たな組織の検討も視野に、議論の土台となる本市の考えをお示しし、教育委員の皆様と目指す方向性の検討をスタートいたしました。

本日はこれまでの協議、検討内容を報告いただくとともに、それらを踏まえた本市の考え方を改めてお示しします。

進め方といたしましては、資料について、担当部署から説明した後に意見交換を行います。事務局の説明をお願いします。

○谷口総合政策部参事

それでは資料について、経済振興部の井之浦審議監よろしくお願いいたします。

○井之浦審議監

まず資料1、文化スポーツ行政の在り方における検討経過についてご覧ください。今年の6月に開催されました総合教育会議において、文化スポーツ行政の在り方について付議をさせていただきました。教育委員の皆様との議論を進めさせていただくために、3回にわたって意見交換をさせていただきました。

関係団体への説明は、7月に開催された社会教育委員会議やスポーツ推進審議会において、構成員の皆様にご覧いただき、総合教育会議の付議内容について情報報告・共有をさせていただいたところでございますが、今後も各関係団体と情報交換の場を設定しながら、事業を進めて参りたいと考えております。

資料中段以降に、意見交換会で出された主な意見、課題等をまとめています。文化スポーツ全体に関わる意見としては、「事業の多様性が進む中、市長部局に事業の連携を調整する司令塔的な部門の設置が必要であること」、「市長部局と教育委員会とで互いのノウハウを共有し、連携しながら進めていくためにも、しっかりと議論や意見交換をした上で、事業展開を模索していくことが重要であること」、「市民のニーズを受けて、組織移管・事業展開を行うことが前提で、特に文化スポーツ活動を担う団体は、教育的な意識を持って活動している人もいることから、その方々の思いやニーズを受けとめていく必要がある」等のご意見をいただきました。

また、文化事業に関しては、「文化芸術や文化財等を気軽に感じて知ってもらうイベント等の事業展開も重要ではあるが、その土台の文化財の保存、継承が重要であり、それを実現するためには、学芸員の知識やノウハウの引き継ぎ、人材確保の視点が重要となってくる」といったご意見や、スポーツ事業に関しましては、「少子高齢化が進む中、健康分野との連携した取組みが重要」、「忙しいビジネスパーソンや子育て世代が気軽にスポーツを楽しむためには、親子で楽しめる取組み、例えばウォーキングやランニングがしやすい道路の整備、遊具が充実した公園の整備など、まちづくり部門と連携した事業展開にも期待したい」といったご意見がございました。

続きまして、資料2をご覧ください。いただいたご意見を踏まえつつ、文化スポーツ政策を重点的かつ総合的に推進していくための組織として、（仮称）文化スポーツ部を設置することを提案します。その目的として、文化は、文化芸術の持つ創造性や多様性を生かし、文化芸術に関わる人々や活動の広がりを醸成して、にぎわいの創出や地域のコミュニティの活性化を図ることで、松戸独自の魅力や価値を創出していく文化芸術創造都市を目指していくということ、スポーツは、スポーツを起点とした地域振興や市民の健康づくりを進めるとともに、プロスポーツチームの連携、誘致を通じた地域のシンボリックな存在の育成や民間活力等を生かしたスポーツ施設の新規整備等を推進していくことで、市民のスポーツ環境の充実を目指していくことを考えております。

具体的な目指す方向性と組織については、4つの機能に分けて資料2にお示ししております。

方向性の1つ目は、政策的な事業展開でございます。市民ニーズをくみ取り、文化スポーツの多様性を生かした事業展開をしていく上で、政策立案や調整機能を強化していきたいと考えております。2つ目は、文化芸術に関わる人々や、活動の広がりを醸成していくための文化創造でございます。文化事業につきましては、その多様性や創造性を活かし、これまでも市長部局、教育委員会のそれぞれで、幅広く展開してきております。また教育委員会では、社会教育と一体的に展開しております。

こうしたことを勘案し、来年度は現在市長部局で実施している文化事業を中心に、教育委員会で実施している事業のうち、にぎわい創出等を目的としたイベント事業を文化スポーツ部で展開しながら、市長部局と教育委員会とで在り方や役割分担を継続して検討していきたいと考えております。

3つ目は、誰もが一生スポーツを楽しめるまちを目指していくための、スポーツ振興でございます。現在教育委員会で推進している生涯スポーツと、市長部局で推進しているプロスポーツチームやアスリート連携などの競技スポーツ支援を一体的に展開し、スポーツを起点とした市民の健康づくり、青少年のスポーツ環境づくり、パラスポーツの推進など、地域振興施策の充実発展を目指していきたいと考えております。

4つ目が、施設整備でございます。施設整備につきましては、市民ニーズでも様々な課題、ご意見をいただいております。そのため、来年度はまずスポーツ施設に関する業務について、文化スポーツ部

で力を入れて検討を推進していきたいと思えます。

最後に、市民の方々には、文化スポーツ施策について、市全体で強力に進める姿勢を示すとともに、文化スポーツ施設の在り方及び事業展開について、事業に関わる関係者が入って継続的に意見交換ができる場を設置するなど、オール松戸で文化スポーツ施策を推進していく体制を整えていけたらと考えております。資料の説明は以上でございます。

○谷口総合政策部参事

ここからの意見交換に先立ちまして、事務局からお願いが2点ございます。

1点目は、議事録作成の関係から、ご発言の際には、お名前をおっしゃってからご発言いただければと思います。

2点目は、ご発言の際は、できるだけマイクに近づきましてご発言いただきますよう、ご協力のほどよろしくお願ひいたします。なお、本日座委員は欠席となります。座委員につきましては事前にご意見を賜っておりますので、事務局から代読させていただきます。

○事務局

それでは座委員からいただいた意見を読み上げさせていただきます。

文化スポーツ部の設置についての考え方。教育委員座一弘。

今回は、重要な会議に、都合が付かず欠席となった点をお詫び申し上げます。以下のように、現在のところの私の心境を述べたいと思えます。

文化・スポーツに関しては、学校教育のみでは無く、生涯教育・生活の質の幅広い観点から施策を提案出来るセクションを将来的には設置することは、十分に理解出来る。ただ、その場合は、十分に市民の意見に耳を傾けながら、文化スポーツ部の設置に向けた議論を醸成していく必要があるのではないかと考える。

現在の市民アンケート調査からは、健康と体力の維持・増進のために、気軽に出来るウォーキング・ランニング・自転車・サイクリング・BMXに対して、道路や環境を整備してほしいとの要望が強いことが読み込める。

一方、プロスポーツを呼び込み、施設を充実させることは、一部の議員からも指摘されているように、経済効果が高く、一流の選手の人気を背に、市民の健康・スポーツに対する意識が向上することを期待する気持ちも理解できる。しかしながら、このプロスポーツとそれに伴う施設の設置は、場所の選定・予算等様々な課題があり、十分な議論が必須である。

私は、市民が求めている上記の地道な日常的なスポーツ向上のための環境整備がまず先行して、基礎をしっかりと築く必要があると考える。この方面での議論は、生涯教育を背景に、各ライフステージに応じて、健康増進や人のつながりの交流などの見方も含めて、更に深める必要がある。

子どもの声については、今回のアンケート結果からは、あまり実質的な意見が上がって来ていないように思われる。子どもの意見を尊重して、施策の作成過程に参加させることは、子どもの参加する権利に沿った実に重要な点であると考え。上記の文化スポーツ部を設置するためには、この子どもの声・意見を十分にくみ取る必要があり、そのためには、もっと時間を掛けて、子育ての世代も含めて、十分な調査を再度行い、丁寧な議論をしていく必要性を感じている。

以上から、まず、市長様をご提案しているように、スポーツ文化を幅広く・総合的に議論する委員会を設置し、子どもを含めた市民の意見を十分に落とし込みながら議論を醸成し、構想を練り、その延長ラインで、具体的施策作りをするスポーツ・文化部等のセクション設置を検討する流れを提案したい。

最後に、私見となるが、かつて市立病院を新たに設置するにあたって、特別委員会を設けて、議論を

醸成・発展させて、結果的に、現在の千駄堀の場所に新病院が完成した経緯を思い出す。このときも、幅広く専門家集団で議論しながら、最終的に議会に提案して、流れが確定した。話題・状況は違うが、この経緯も参考になるのではないかと考える。特別委員会設置についても、このことだけでも、市長様の新病院建設に向けた意気込みを感じる事が出来たと記憶している。以上となります。

○谷口総合政策部参事

それでは市長、よろしくお願いします。

○本郷谷市長

事務局から報告のありましたとおり、市を挙げて、文化スポーツ政策を総合的に推進していくために、市全体での姿勢を示していき、体制整備も含めて、方向を示していきたいということです。

また文化スポーツ政策については、多様な取組みがあることから、文化やスポーツの関係者のほか、健康や福祉関係の事業に関わる方々にご参加いただき、新たに意見交換の場を設置していきたいとも思っています。

まずここまでの説明・資料の内容について、ご質問等がございましたら伺いたいと思います。

(質問なし)

○本郷谷市長

それでは資料の内容を踏まえて、意見交換に移りたいと思います。文化スポーツは重要な施策です。今までも様々な政策を打ってきたわけですが、環境も変わり、またその重要性も広がり、様々な意味で世の中が変化してきています。ここで、それを推進できるような方向や体制をしっかりと持っていきたいというのが今回の趣旨だと思います。それを踏まえた意見があればよろしくお願いします。

○伊藤委員

資料1の設置目的に「文化芸術創造都市を目指す」というのがあります。私の理解では、文化芸術創造都市は文化庁が提案しているものだと思います。松戸市は科学と芸術の丘やパラダイスエアといった取組みを中心に掲げて、すでに文化芸術創造都市に手を挙げていると思うのですが、今回改めて文化芸術創造都市を目指すというのは現在の枠組みをさらに超えて、文化芸術創造都市を目指すということか、あるいは内容的に何か変わるといことでしょうか。すでに文化芸術創造都市になっているのに、今回の文化スポーツ部の新設の関係で、これを取り上げられているのか、その辺りの意図が何かあれば教えてもらいたいなと思います。

○井之浦審議監

伊藤委員のおっしゃるとおり、現在松戸市は、文化芸術創造都市の取組みを推進する自治体等がエントリーする、文化庁の創造都市ネットワーク日本というものに加盟しています。加盟した頃は、幹事自治体であったが、今は幹事から抜け、ネットワークの一員になっています。これを初心に戻って、目指していきたいということです。また、文化芸術創造都市の宣言をしている自治体もごぞいます。松戸市はまだ宣言はしていませんので、今後そういったことも含めて検討してまいりたいという趣旨となります。

○伊藤委員

今回の部の新設を契機として、松戸市が目指す中身をもっと充実させて、さらにネットワークの中心になるような都市を目指すという意気込みを示したという理解でよろしいでしょうか。

○井之浦審議監

そのとおりでございます。

○本郷谷市長

文化芸術創造都市は、ヨーロッパで1990年代頃に始まった運動であり、松戸市も当然ながらその価値観について、重要なものだと認識しています。松戸市も文化庁がスタートしたネットワークに参加していますが、それだけではなく、まち全体として文化芸術創造都市を目指し、この理念に基づき、イベント等の実施など、様々なところで市を上げた動きをしています。

○伊藤委員

その点について何ら異論はないのですが、文化芸術創造都市というのがどの程度市民の間に知れ渡っているのかという観点からいうと、おそらく多くの人は知らないのではないかと危惧しています。今回、新しい部の設置に伴って、もう少しPRをして、松戸市が文化スポーツに力を入れているということが示せばいいなと思っております。

○山形委員

先ほど市長からもお話があったとおり、コロナもあって様々な時代の流れが変化したこと、また今日までの対話の中で、様々なことを兼ね備えて、包括的に考えながら、腰を上げて動いていくことのニーズや必要性というのを感じました。

和座委員の意見に納得する部分がある中で、私も市民の声、ニーズ、本当に市民のためになるのかというところをしっかりと考えながら進めていくことが大切だと思います。

私は子育て支援の現場にいて、リアルに日々生活している親子の姿を見ていく中で、文化やスポーツにママさんパパさんが参加するというのが難しいことを感じていますが、もし、新しい部ができることで、子育て支援を含む多方面との連携やニーズの抽出がより深まる可能性があるのであれば、前向きに考えていったほうがいいのかと思いました。

昨日、ベネッセの調査で面白いデータをみました。小学校3年生から6年生までの1万3000人の子どもたちに、憧れの人は誰ですかという質問をしたところ、1位が友達でした。2位が母親で、3位がアニメのキャラクターでした。10位までの中に父親はいませんでした。子どもの現実を私たちはとらえていないということを痛感するアンケートでした。

また、そのアンケートを見て面白いなと思ったことは、1万3000人のアンケートの中で、1位の友達を選んだ子の数が290名程度だったことです。これはとても多様性に溢れていて、様々な子が様々なことを書いた結果、このような答えにもなったのだなと思いました。

私たちはまだまだ市民の意見を分析していかなければならないし、もっとリアルを見ていかなければいけないと思います。そういった部分について、文化スポーツの分野が市長部局に入り、部として拡張して視野が広がることで、エンパワーメントの方向に動くのであれば、いいことであると考えます。

逆に、今まで寄り添ってきた学校との繋がりが弱くなり、そのような連携の部分で今まで培ってきたものがなくなっていく恐れということも懸念します。

10月28日に森のホール21で開催されたまつど音楽フェスティバルに行かれた方もいらっしゃると思いますが、次の日もコンサートがあり、その次の週もイベントがあって、数年前に比べると松戸市が市長を中心としてとても頑張ってくださっていると感じます。駅前でもたくさんのイベントが開催されていて、工夫がされていると感じる中で、それでも子育て支援の現場や教育委員会での家庭教育等の現場には繋がっていないと感じる部分もあるので、連携を強化することのニーズの高さも感じています。

最後に、教育との繋がりについて、スポーツや文化を市長部局が中心となって市全体でやっていく際に、生涯教育・学校教育との連携や、本当に文化財保存活用課が残したいもの等との連携が薄まらな

いかという点については、本当に丁寧な対話が必要だと思っています。

○中西委員

私は松戸市に住んでいないので、ある意味、外からの松戸市が見えているかと思うのですが、松戸市が文化芸術創造都市だと言われても、松戸市の外の人多くは、残念ながらそのような認識はしていないと思います。一方で、教育委員を拝命してから、ここで様々なお話を聞いていると、文化芸術に力をいれているということも実感します。

昨日、来年の6月に森のホールで、天才的なバイオリニストの少女がコンサートを行うという話を家内から聞きまして、流石だと思いました。しかし、そういったことと、新しい部を作るということは本当にリンクするのだろうかという点については、意見交換会の間もずっと疑問を感じてきました。和座委員のおっしゃっていることに同感なのですが、司令塔的な組織を作った動かすということに関しては全く異論ありません。また、今も文化スポーツ振興担当室という組織があるので、その人数を拡張して、積極的にPRしていくということに関しても全く異論ありません。

しかし、資料1の「3 意見交換会で出された主な意見・課題等」にある「事業の多様性が進む中で、市長部局に事業の連携を調整する司令塔的な部門の設置は必要」という記載について、井之浦さんのご説明の際には、「設置が必要」というふうに仰いました。「設置は必要」と「設置が必要」は微妙にニュアンスが違うのではないかと私は思います。私も設置は必要だと思いますが、しかし、という部分がこの意見の中にはあったと思います。これがどなたの意見だったかを正確には記憶しておりませんが、意見交換の場の設置というのも提案されていますので、部の新設よりそちらが先なのではないかと思います。その1年後に組織を拡大するというのであればまだわかるので、急ぎ過ぎではないかなという気がしております。

○武田委員

資料1を見させていただいて、中西委員も言及された、全体に関する司令塔的な部門の設置という点に関しては、3回の意見交換の中で、今まで教育委員会が行っていた事業と市長部局が行っていた事業がしっかりと連携できていないということが事実としてありましたので、そういったことを払拭していくための共通認識機関を作っていく必要性というのはあると感じています。

先ほど中西委員から、文化芸術創造都市について、松戸市はそのように見えないというお話があったのですが、松戸市というよりは千葉県がそのように見えないというのが正確だと思います。東京は別としても、埼玉県、神奈川県は、文化水準が千葉県より高いと思います。その中で、千葉県も知事が変わり、コロナ明けから勢いを増して、文化に対する考え方と行政の動きが活発化しています。それが市にどのようにフィードバックされるのかというのは少し違う話だという方もいるかとは思いますが、本来は県と各市の方向性を同じくして、しっかりと稼働していかないと、県全体として良い文化、良いスポーツ行政のイニシアチブというのは取れないのかなと考えます。

この検討の話が初めに出たときに、私が一番懸念した部分は、プロスポーツという言葉ばかりが前に出ているように感じられたことです。スポーツのための施策としては、少し違うのではないかなというアレルギー反応が最初にありました。

というのも、スポーツは文化だといって、スポーツに関連した施策をやったら、文化施策もやったという体になっては困るからです。文化という領域の中には、華やかなイベント的なものもあれば、そうではない地道な部分も多分にあります。それは教育委員会がやればいいじゃないかという風に投げ捨てられては困ります。要するに、大きなイベントをやる場合であっても、そういったベーシックな部分が絡んでこないということはひとつもないので、ささやかなところまでしっかりとリンクすることに一番に注力させていただいて、繊細に物を進めていくような機関にならなければ、司令塔という形

にはなり得ないと思います。

松戸市は、子育てしやすいまちというのを謳っていますよね。これまで様々なアンケート結果を挙げていただいた中で、忙しくてスポーツができない世帯というのは、イコールで労働世代に当たります。生涯学習や学校教育をやっている教育委員会の現場の高齢者や子どもたちというのは、必ずしも時間がないわけではない。ただ、子どもたちの親が忙しい状況にある時に、子ども達がそれを享受することができるのかという、かなわない子どもたちが多数います。そうなったときに、それでも子育てしやすいまちを推進していくという理念を持って松戸市が動くのであれば、市という器の中で、親にゆだねて育てるというよりは、市がこのような子どもたちに育ててもらいたい、あるいはこのような高齢生活を送ってもらいたいといった理念を掲げて、司令塔を請負うという形でないと、不安感と懸念が必ずついて回るとというのが、3回の意見交換を通して払拭できない私の意見です。

○伊藤教育長

まず何度もこういった議論の機会を作っていただきありがとうございます。非常に難しい問題ですし、必要な議論ですので、今後を考える上では貴重な時間だと思います。

難しいというのは、昭和・平成の時代のように、一括した、同じ方向での進み方はもうできないという前提があるからです。本当に様々な方向から見た議論をしなければならない。それだけ物事は多様化していて、その多様化にどう向き合うかというのが、私たちが初めて直面していることだと思います。

教育行政も一般行政も含めて、この国全体、この社会全体の行き先として初めて向き合わなければいけない議論ですから、今までと同じ感覚で考えては、もう上手くいくわけがないと私は思っています。一番難しいのは、多様化にどう行政的に向き合わなければいけないのかということです。そこで私は、意見交換会でも申し上げたと思うのですが、一括して部をつくれれば何とかなるという発想はあまり意味がなく、多様化については多様化で対応するしかないと考えています。

しかし、その多様化への対応をどこかの部署できちんとコントロールしないと全体が見えないので、コントロールセンターが必要だと思います。そのような部署は松戸市全体の文化教育を見られる場所でないと、進めないと思います。

今の組織体制でも私はうまくいっている方だと思っています。それぞれの部の、あるいはそれぞれの課の得意とする分野で、様々な文化的施策を進めていただいています。何度も話題に出ている科学と芸術の丘のようなイベントは、教育委員会でやれと言われたら、あれほどのにぎわいは正直つくれないと思います。同じ時間と人を使うのであれば、どうしても、文化財を大事にするといった、まじめな方向にいつてしまう。しかし、違う特色を持っている課が担当するので、あのような楽しいイベントが生まれるわけです。そういった多様性の部分を残しつつ、全体的にもっと向上させるためにはどうすればいいのかについて私たちは考えなくてはいけないわけですから、もっと議論する必要があると思います。

そうすると、もっと時間が欲しい。急いでやるのではなくて、他部署、諸団体の方々を含め、もっと人数の多い議論の場を作っていただき、ここはどうするという議論をしなければいけないのかもしれない。また、ある程度この方向性に進んでいくのであれば、段階的に進めていただきたいと思います。どのような段階を踏んでいくのかの具体的な図が見えれば、また様々な考え方が出てくるのではないかと思います。

○本郷谷市長

形ばかり気にしている感じがするのですが、要するに、スポーツというのは教育だけのスポーツではなくて、お年寄り向けのものも、子ども向けのものもあり、またアートといっても、学校教育として

のアートもあるが、生活の中に入っているアートもあるわけですから、まちづくりそのものがアートのでもある。様々な面で昔と比べて重要な要素になってきています。それをこれまではバラバラにあちこちの部署でやってきたので、それだけではなく、全体の方向性を決めながら進めていくことが必要だろうという議論だと私は思っています。

ただ、個別の事業については全てを一元化して行うというわけではありません。基本的には、様々な部署で事業を行っていきませんが、今は、方向性をどうするのかという議論だと思います。個別の事業について具体的な内容をどうするのかというのはこれから時間をかけて議論していけますし、連携をとりながらどういう事業を実施していくのかについては、この10年間でも相当議論してきたと思います。

先程のまつど音楽フェスティバルについて、最初は市長部局において、松戸市は音楽のまちで、子どもたちもお年寄りも成人も含めて音楽が盛んだから、音楽のお祭りが必要だろうというところから始まりました。松戸まつりのようないわゆる「お祭り」にするのではなく、もっと文化的なものにしようということ、教育的な視点だけではなく、市全体を見た音楽のお祭りにして欲しいということで、2回目、3回目と、少しずつ内容を育てています。パラダイスエアも海外から人気で、長期滞在プログラムの2名を対象とした海外アーティストの募集に対して、1000名ほどの応募があり、日本有数のアーティストインレジデンスといえます。先日開催された科学と芸術の丘でも、ヨーロッパのアルスエレクトロニカという文化機関とのプロジェクトを戸定邸という歴史的な場所で行っている。松戸のイベントについて、何を目的にやっているのかを機能的に分ければ様々な面が広がっているが、それをどこかの部署がやれば良いというのではなくて、市全体で連携して取り組んでいく必要があります。

スポーツにおいても、従来は学校教育、学校スポーツという形でスタートしていますが、地域でもっとスポーツを盛んにしたいということで地域スポーツをやろうとしても、中学・高校が学校単位でのスポーツ大会しかない。小学校までは地域の人がバックアップして育てても、中学・高校になるとバラバラになり、松戸の子がどこへ行ったのかわからなくなってしまいます。もっと地域との関係も含めて見直さないといけない。ただ、地域の人が学校に入っていくというわけではありません。海外ではほとんどの場合、スポーツは地域のプロジェクトとして動いていますから、松戸でもそれを実施しようと思ったが、結果として育っていない。中学生から松戸にいなくなってしまうから、組織として強化できません。

それからお年寄りの健康に良い第一のことはスポーツをすることで、これは教育のためにしているわけではありません。このように、スポーツ、芸術、アート、文化というのは、様々な意味で重要性が増していて、様々なものに絡んできている。文化、スポーツを抜きにしたまちづくりはもう考えられません。そういう意味でも非常に重要で、全体をしっかりと推進する体制が必要です。国では文部科学省の外局として、文化庁とスポーツ庁が、県では、知事部局にスポーツ文化局といった体制ができていて、隣の市川市もそのような体制になっている。様々なところでこのような司令塔を作りながら推進している。この点で、松戸市は全体を統合しながら、市全体でスポーツ文化をより盛り上げていくという体制づくりが遅れています。

今はまだ、それぞれの部署で取り組みを育ててきたという過去の経緯もあって、バラバラなところがある。これからお互いに、力を合わせて動かしていく、全体の力を上げていくためにはどうすべきか、という視点での議論をしたいと考えています。予算や人員というのは市長部局が握っているので、直接的に、より強力に進めていこうと思ったらやりやすい状況がある。そのような体制でもって、皆さんの、教育の視点に立ったまちづくり等の、様々な視点で議論しながら、意見を反映して、施策等を

つくってあげれば良いと思います。

形ではなくて、状況が変わってきていることの重要性を認識し、共有できるかどうかが重要だと思います。文化芸術創造都市というの、1990年代ぐらいからはじまった、従来と異なる、文化芸術を中心としたまちづくりをすることで、皆さんから喜ばれる、好かれるまちを作っていこうという運動です。単に住めば良い場所を造ろうとしているわけではなく、心豊かな感動できるまちを創っていこうとすることで、もっと広がりのある議論ができるかと思っています。施策も、広がりが多い施策をみんな打っていく。様々な視点から議論していただくことが重要なのであって、形にこだわるものではない。要するに、様々な意見をどのようにして反映していくかが重要だと思うのですが、それはこれから具体的な議論をしてあげれば良いと思います。今お示ししている形で十分だとは思わないですし、皆さんとともに作り上げていきたいと思っています。

○武田委員

今の市長のご意見をお伺いして、本件に関して市川市や柏市が先を行っているが、逆に後発だからこそできることがあるのではないかと思います。先発的に、市長部局に移管したからといって、正しいイニシアチブの取り方だったというわけではない。恐らく各地にあるだろう修正を加える動き等を客観的に見る事ができる。

後発的にやることで、今おっしゃったようにもっと繊細に、様々な方の意見を聞くこともやぶさかでない、新しい形の司令塔づくりができるのであれば、それは本当に素晴らしいことだと思います。他市がどのような形をとっているのか知らないのですが、それでも恐らく市長部局の方が調べれば様々なことがわかる中で、何かしらの不都合や、修正を加えている部分というのであれば、逆にしっかりと形を作りすぎないからこそ、そういったことも反映できるのではないのでしょうか。そういうものを目指しているのかなというふうには私は受け取ったのですけれども、そのような理解でよかったですでしょうか。

○本郷谷市長

まさにそういうことです。繰り返しになりますが、今までは子ども、教育、高齢者等、分けてやってきた部分を、全体として見ていかないといけません。組織というのはどの形の組織が良い悪いというものではなくて、例えば今までこのようにやってきたのを一つの方向に向かわせるとしても、また別の問題が出てくれば、それを解決するために別の組織を作っていくものです。あまり形にとらわれることはないが、今は全体でしっかりと議論できる場を作っておく必要があります。

今までですと、バラバラにやっていたので、例えばまちづくりの中でとある文化的なことをやっているとして、教育委員の皆さんにそれを知っているかと聞いても、ほとんど知らないと思いますし、情報が入ってこないでしょう。しかし、お祭りやイベント等は重要な文化事業です。

松戸まつりだけではいけないということで、11月3日に松戸駅周辺各位にて松戸にぎわいフェスタを開催しますが、これは従来とは違ったフェスティバルを作り上げてこうというものになっています。それは、教育面等の機能別に見て判断するものではなく、プロジェクト全体に、子どもの意見を含め様々な意見が入ってくるのを聞いて、反映していけば良いと思っています。

今の状況は、我々から見ていると歯がゆいです。それぞれがバラバラに見えるし、なかなかお互いの情報も十分に共有できていない。同じ気持ちでまちを動かしているのは間違いないと思っていますが、松戸は大きなまちで、様々なことができ、文化的な面でも評価されている特徴的なまちだと思っています。JRも、JOBANアトラインという、常磐線沿線をもっと文化的、アートのしようというプロジェクトを東京藝大、沿線自治体と一緒に進めています。そのように様々なものが絡んでくるので、今は、それぞれ機能別に議論するような時代ではないと感じます。

○伊藤委員

市長のお話をお聞きして、今度の文化スポーツ部の新設に伴って一番大事になってくるのは文化スポーツ政策課だと感じました。ここで、基本的な方向性を議論し、しっかりとした施策を立ててくれるかが、非常に重要になってくると思います。特にこの中で一番大切だと思うのは、松戸市独自の、考え方の柱となるような、新たな魅力や価値をつくるということです。先ほど申し上げた文化芸術創造都市は、関東甲信越だけで40程度の自治体・団体がネットワークに加盟していますが、それぞれにおいて何か大きな目玉になるような事業やイベントがあり、それを背景にして加盟しています。しかし、今のところまだ、松戸市独自の新たな魅力や価値というのは少ないのかなと感じています。文化スポーツ政策課で新たに考えていただいて、新しい魅力や価値をつくり出していくことが、これから大事になってくるのではないかと思います。

また、その下にある文化創造課が何をやるのかについては、資料に列記されたものを進めていくのかなと思っています。ただ、それに入らない松戸まつりや花火大会、さくらまつり等は、観光的な側面があり、従来の経済振興部の、名称は変わるかもしれませんが、にぎわい創造課が引き続きやっていくことになり、またそこにも入らない文化的な事業については教育委員会の社会教育課が教育絡みのものも含めてやっていくということであれば、我々が考えている文化というものが、大きく三つないし四つぐらいに分かれて担当されるということになります。

先ほど教育長がおっしゃった多様性という点については、そのように様々なところに分かれてやっていくことがよいのだろうと思うのですけれども、他方で、市民の側から見ると、一体どこへ何を問い合わせればいいのか、例えば助成金をもらうのであればどこへ連絡すればいいのかということが分かりにくいのではないかとというのが心配です。その点については、今回の部の創設に伴って、しっかりと示していただきたいというのがお願いです。

また、今後委員会等が設立される場合にも、それぞれの部署の担当している文化的なイベントや行事、施策等を調整しながら、連携しながらやっていくものになると理解しています。あるいは将来的には、とある部署でやっているものを別の部署へ移管するといったことを議論するような委員会になるのかなという理解でいます。もしそれが違っているのであれば、ご指摘いただければと思います。

○本郷谷市長

ご心配されていることは、当然ながら、しっかりと整理をしていきます。

○山形委員

私は23年松戸市民でいますので、市民の代表として、ここに座らせていただいています。先ほどの市長のお話にあったパラダイスエアは、正直言うと、教育委員になってから何をやっているかを知りました。子育て支援の現場にいと、働く世代の保護者は本当に時間がない中で暮らしていて、どんなイベントでも、松戸市のどこの部署がやっているかというより、「松戸市」がやっている、というところを見ていることが分かります。

何のために文化やスポーツを市全体で推し進めていくのか、その「何故」のところを、先ほど伊藤委員がおっしゃったような考え方の柱のようなものが、例えば物理的な、戸定邸等ではなくて、松戸市はウェルビーイングというような幸福についての考え方、働く世代が多かったり、量的な世帯が多かったりする中で、文化芸術を進めるのも、音楽のまちも、すべてが一人一人の幸せを願う優しいまちの願いなのだということに触れられるような発信の統一感が、もしかしてあるのかもしれないけれども掴みきれていないのが、一市民として、教育委員となった視点もあるので様々なものに積極的に参加していますが、その様な部分の柱、何故やっているのか、そして、それは松戸市が皆さんに愛着を持って、ここに住んでいるかどうかというよりもそのプロセスの中で引越す方もいる中で、この市

で感じたものが、生涯の1ページの中でよかったと感じられるような醸成が、市長がおっしゃるに、各種のイベントが様々なところでやっても、手が繋がっていないのはもったいないと私も様々な広報誌などを見て感じていました。

そういったことを、司令塔がしっかりと牽引していくことが、ニーズとして必要なのかなというのを、今お話を聞きながら強く思いました。そして、市民の背景理解の部分について、私は松戸市の公式LINEに登録をしているのですが、今朝の案内で、子育ての孤立予防に繋がるメッセージをもらいました。そのような、アートや文化、お祭り、フェスティバルであっても、そこにそっと寄り添うようなケア的な支援が広がるのが、もしかしたら松戸のニーズとして潜在的にあるのかもしれない。包括的に広がっていくような考え方を持って、事業が展開されていくことが、これからの多様な時代に必要なのかなと思います。

11月3日に松戸駅周辺でフェスティバルがあるとのことでしたが、同日に21世紀の森と広場でもイベントがあるので、松戸市の様々なイベントについて、一元化して見えるようにすることなども、まとまってやるのができるのであれば、忙しい大人たちも目が行き、そのそばにいる子どもたちにも、教育的な視点で、やったことのない、聞いたことのないことができるという体験を届けられるようになるのかと思いました。

○本郷谷市長

今よりも、できることは増えるのではないかと思います。この議論は常に考えながらやらなければいけない。議論をしっかりしながら方向性を決めて、施策展開していくのがいいかなと思います。まだまだバラバラになっているところはありますが、全体として連携することで、また違った価値が出てくる。それはこれから期待できると思います。

○武田委員

今のお話を聞いて、山形委員がいつも言っているウェルビーイングということについて、松戸市は「やさシティ」という題目をつけていますし、市として市民にどのような生活をしてほしいのか、子どもたちにどのような将来に向かって育っていった欲しいのかという、いわゆる理想と理念をはっきり持って、どの体制からも、そこに向かって何をすべきかを検討していくというのが、今までずっと謳い文句としてきたものにも寄り添っているのかなと思います。

また、さきほど山形委員がおっしゃったことにつながるのですが、どんなイベントに行っても孤立予防に関する相談場所が必ずどこかに設置されていて、どこに相談していいかわからない人が、何かしらのイベントに行けば何とかなるというような、そういう優しさは大変面白いなと思って聞いていました。

それともう一つお願いなのですが、伊藤教育長が先ほどおっしゃっていたように、コントロールセンターを設置する中で、まだまだ意見の参集が足りないと、私含め教育委員の皆さんが感じているように思いますので、市役所内の他の部署の方の意見を伺えるようなチャンス、あるいは市民団体や市民の代表者のような方のお話を伺えるようなチャンスがあれば、非常に意見が吸い上げやすくなるのではないかと感じました。

ニーズを調べるのは、役所内の働いている皆さんに対しても同じことがいえると思います。無理に組織を変えたからといって、キャパオーバーになってしまえば、それこそ疲弊してしまうので、今までやってきたものと、新しいものがうまくリンクできるような形を考えていただきたいです。

先ほど、市長が紹介したパラダイスエアのように、2名の募集に1000名以上も応募される取組みがある反面、私が青少年会館に出向いたお祭りには、現場に来ている外国の方がワークショップをやりながら、こういった催しについて、本当は学校で子どもたちに英語を含めて享受したいが、現実的

には難しくてかなわないと言っていました。そういった不具合は必ずあります。片や学校は忙しく、時間の捻出も非常に難しいとも聞いています。ですので、そういう難しさをコントロールしてマッチングして行ってこそ初めてこのパラダイスエアに付加価値がつくと思います。

広報誌に掲載されていても、そういうものに興味のある方しか着目しないのではないかと思います。現実に行っていることすら知らない市民がいる中で、これだけ世界から人気を得ているという矛盾が現状なので、統括する部署で行っていただきたいことへは山のような期待感があり、その一方でとても大変なコントロールが必要とされると想像します。

○本郷谷市長

パラダイスエアは、若いアーティストが松戸に滞在し、地域の人たちと一緒に交流しながら、アート活動をしており、そういう事業が、地域に根付き始めているということが重要で一番の価値だと思っています。その一方、まだまだ発展途上なので、せっかく世界のアーティストが来ているので、触れ合う機会をもっと作って、もっと広げていかなければならない。磨けばまだまだ面白くなると思います。

ですので、このような議論を皆さんと進め、情報をお互いに共有して、それぞれの活動で生かしていく。そのような場を作っていかなければならないし、それをコントロールする部署が必要だと思います。

また、スポーツについては、健康や、自分自身の楽しみのための運動など、どう表現するかによって印象が変わりますが、すべての世代で様々な観点から大切です。社会的には、まちのイメージと結びつくようなプロスポーツがあると、まちのイメージも変わります。そういった効果もある。ただ単に施設を作るといっても、そんなに簡単できるものではないので、皆さんと機運を盛り上げていかないとできないことなので、そのためにも、しっかりとした組織で、強力に推進することをしなければ進まないなという気がしています。

今日の意見を踏まえて、今後もこのような機会を利用しながら、どのようにして市のポテンシャルを上げていけるかを検討できればと思います。文化芸術創造都市についてはあまり気にする必要はないです。ただこのような言葉が、一つの価値としてあるというだけで、我々は自分たちでまちに合ったものをつくり上げていけば良いわけなのです。

○中西委員

先ほど、司令塔的な場の必要性については、私も異論ないと申し上げましたが、指令やコントロールについても、役所が中心となって言い出して上手くいくものだろうかとも思います。役所は下支えのような存在だろうというのを改めて思いました。民間の力をどのようにして活かしていくかということがとても大切で、場合によっては、適切な方がいれば、そのような人が入るといった発想もあっていいと思いました。

○伊藤教育長

市長のおっしゃることと、私たちの意見はベースではあまり変わらないのかなと思います。ただ、何度も言いますが、多様化に対応するのは難しく、以前武田委員が教育委員になられた頃に、様々な地方において、小さい自治体ほどはっきりとした特徴があり、それぞれで売りとする文化があるが、松戸市のようなところは、逆に難しいとおっしゃっていました。松戸は、50万人都市の多様化している文化だと思います。しかし、情報を共有する場がこれまでは少なかった。いかに工夫して、そのシステムを生み出し、意見交換ができる場を設置できるのかが本当に重要だと思います。松戸市の大きな特徴が多様性という部分であるならば、パラダイスエアや科学と芸術の丘等、様々な面についての発信をどのように総合的にやっていくかといった考え方からも、とにかく動いていかなければいけな

いので、そこへ向かって、もう少し議論ができればと改めて思いました。どうもありがとうございました。

○本郷谷市長

予定の時間も来ましたので、本日の議論はここまでとして、これから動くためには色々と課題もあるでしょうから、また様々な意見を出していただき、議論してもらえたらと思います。最後に事務局から連絡があればお願いします。

○谷口総合政策部参事

今後のスケジュールについて総務部長から報告があります。秋庭総務部長よろしくをお願いします。

○秋庭総務部長

これまでの意見交換会の内容や、本日いただきましたご意見も踏まえまして、市長部局から教育委員会に対しまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第23条の職務権限の特例に関する意見を聴取させていただければと存じます。また、教育委員会におかれましては、意見に対するご回答をいただければと存じます。

○谷口総合政策部参事

次に事務局からの連絡です。次回の会議の開催日程等につきましては、市長部局事務局と教育委員会事務局と協議をさせていただきまして、決定しましたらご連絡させていただきます。

◎閉 会

○本郷谷市長

それではこれもちまして、令和5年度第2回総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。